

厚生労働科学研究費補助金
障害保健福祉総合研究事業

視覚障害者に対する生活訓練地域支援システムの
構築に関する研究

平成15年度 総括研究報告書

主任研究者 築島 謙次

平成16(2004)年3月

目 次

I 総括研究報告

視覚障害者に対する生活訓練地域支援システムの構築に関する研究 築島謙次	1
（資料1）ネットワーク会議資料	6
（資料1-1）医学評価カルテ（様式1）	
（資料1-2）ケース調査票（様式2）	
（資料1-3）生活時間調査表（様式3）	
（資料1-4）日常生活活動状況調査表（定義） 日常生活活動状況調査表（様式4）	
（資料1-5）訓練支援計画書（様式5） 訓練支援計画書（記入例）	
（資料2）地域特性アンケート調査結果資料	17

厚生科学研究費補助金(障害保健福祉総合研究事業)

総括研究報告書

視覚障害者に対する生活訓練地域支援システムの構築に関する研究

主任研究者名 築島 謙次

国立身体障害者リハビリテーションセンター 第三機能回復訓練部長

研究要旨

本研究では、地域に点在する機関の機能を有機的に活用することにより、地域障害者支援の質の向上及びインターネットを利用したケースカンファレンス等による職員の専門性向上を図る支援システムの構築を目的とした。本年度はインターネット会議システムを利用したケースカンファレンス・システムを構築するとともに、地域特性に基づく各センター間の訓練内容の相違点を明らかにした。

分担研究者

岩谷 力(国立身体障害者リハビリテーションセンター更生訓練所)

設があるか、その形態、規模、専門職員数やサービス提供形態は様々であり、提供できるサービスには自ずと限界がある。

また、各施設の機能を有機的に活用するためのネットワークも未確立であり、共通の視機能評価法や地域特性を考慮した評価・訓練方法は確立されていない。

本研究では、地域に点在する機関の機能を有機的に活用することにより、地域障害者支援の質の向上及びインターネットを利用したケースカンファレンス等による職員の専門性の向上を図る支援システムの構築を目的として、以下の検討を行った。

A 研究目的

社会福祉事業法の改正に伴い、平成15年度以降障害者の主体性と選択権を確保した地域での質の高いサービス提供が求められている。

また、糖尿病による視覚障害や重複障害の増加に伴い、就労が困難であり、家庭や地域社会での生活の質の向上が目標となる視覚障害者が増加している。

欧米では、以前から地域リハビリテーションの仕組みが構築され、アメリカにおいては、盲ろう等の重複障害や重度障害者に対する拠点訓練機関と全国のブランチとのネットワーク化による効率的訓練体制が整っている。

国内においては、視覚障害者に対する移動、身辺自立等の生活活動に係る80以上の訓練施

B 研究方法

1 既存のインターネット会議システムを利用することによって、国立身体障害者リハビリテーションセンターと4つの国立視力障害センターで、生活訓練課程入所者に関するケースカンファレンスを行った。カンファレンスにはインターネット会

議用に作成した資料を使用した。また、遠隔で行うカンファレンスメンバーがケースの状況を把握しやすくするため、画像データの利用を検討した。

2 地域特性調査項目の抽出 昨年度抽出した調査項目について、国立身体障害者リハビリテーションセンターと各国立視力障害センターの生活訓練担当者にアンケート調査を行った。調査によって得られた内容をカテゴリー毎に整理した。

C 結果と考察

1 インターネット会議システムを利用したケースカンファレンス・システムの検討 NTTの提供するインターネット会議システムを利用し、国立身体障害者リハビリテーションセンターと4つの国立視力障害センターで、生活訓練課程入所者に関するケースカンファレンス・システムについて、以下の検討を行った。

1) 実施事項

- ・ネットワーク会議で活用できる機器類の検討を行った。
 - ・対象者の状態像が簡潔に把握できるようネットワーク会議で使用するケース調査票を作成した。
 - ・国立身体障害者リハビリテーションセンター内にある電子メールアドレスを持つパソコンを複数台使用し、ネットワーク会議を行うための問題点の整理を行った。
- 国立身体障害者リハビリテーションセンターと各国立視力障害センターによるネットワーク会議を試行した。これにより、会議メンバーがシステムを理解するとともに、機器操作に習熟し、ネットワーク会議の準備を整えた。
- ・ネットワーク会議担当者会議を開催し、動作の確認と会議の進め方の検討を行った。
 - ・ネットワークによるカンファレンスを実施した。

2) 会議システム

・既存の電子メールアドレスを登録したパソコンに音声通信用のヘッドセット及びカメラをセットすることにより、画像と音声による会議環境とした。

・カンファレンス資料は、ケース調査票、生活時間調査表、日常生活活動状況調査表および訓練支援計画書とし、事前に送付した。

・意見交換には音声に加え、文字チャットと電子白板を使用した。

3) 検討事項

・共有ファイルに手書きで文字を書き込むタブレットを試用した。

・PHS通信システムによる会議を試行した。遠隔の訓練場面で各専門職が意見交換する可能性を探るため、“Air H”を使用した。結果として、通信速度が遅いことが原因と思われる音声の途切れ、画像や電子ファイルの転送の遅れ、パソコンの停止等があり実用的ではなかった。

・言語化しにくい情報を共有する手段として画像データをネットワーク上で共有する検討を行った。結果として、動画画像の転送は各メンバーに順番に転送されることから、時間がかかること、転送中にパソコンにエラー表示がでるなど実用的でないことがわかった。

したがって、画像データを試用する場合は、カンファレンス開始前に送付する方が良いという結論に達した。

・共通ファイル形式を検討した。ワープロソフト、表計算ソフトなど形式の異なるファイルをパワーポイントで統一する検討を行った。結果として、それぞれのファイルをパワーポイントに置き換える作業に手間がかかることや、表示が小さくなり見にくくなることが確認され、転送の速度はどのファイルにおいても大差がないため、統一の必要性は感じられなかった。

・共通ファイルの活用方法を検討した。事前に送付できるファイルは電子メールで送付しておき、カンファレンス中に質疑が生じたときにのみネットワークシステムを使ってファイルを共有することとした。

・音声通話を検討した結果、2名での相互交信は可能だが、3台での交信ではできなかった。

・会議システムを検討した。会議に当たっては司会者と記録者を配置し、音声の聞き違いによる誤解が生じないよう配慮した。

また、会議のシナリオを用意した。

・会議資料を検討し、対象者の全体像を把握できるケース調査票を作成した。

今回実施したインターネットカンファレンス・システムによって、国立施設間で機能を有機的に活用することにより、地域障害者支援の質を向上させることが出来る。

さらに、国立施設以外の機関での使用希望があれば、電子化したファイルで提供してアセスメント方法の解説や結果から支援計画策定を行う際のアドバイスも行える。また、インターネットカンファレンスに乗せて、全体での検討を行うことも可能な状況にある。

また、現在は、国立身体障害者リハビリテーションセンターが中心となりインターネットによるカンファレンスを行なっているが、地方の国立視力センターが中心となり、その地域にある視覚障害者に対する生活訓練機関とネットワークを結ぶことにより、地域での訓練支援を具体的に行うことができる。支援の対象は訓練機関のみならず、眼科病院、眼科医院等の医療機関において生活訓練のニーズを持つ患者がいる場合も、訓練に関する情報提供や迅速な訓練機関への移行支援も可能となる。特に糖尿病や透析、高血圧、心臓等の疾患や、視覚障害以外の障害を持ち、地方の視力障害センターでは対応困難な対象

者を総合的機能を持つ国立身体障害者リハビリテーションセンターへ移行させる際も、事前に最寄りのセンターでアセスメントが行えれば、迅速な訓練導入が可能となる。

2 地域特性調査項目の抽出

地域特性が訓練内容に強く影響している点か明らかになるとともに、それぞれの地域内においても訓練対象者の社会的、環境的背景に応じて工夫することか必要な点の少なくないことも明らかとなった。そこで、調査結果を以下のようにまとめた。

1) 単独世帯や人口の流出・入の率の影響

・核家族化していない地域では家族支援を受けやすい。一方、単身生活者や核家族が増加している地域では援助者やキーパーソンが不足することがある。

その反面、都市部では社会資源の活用が容易である。

・人口の流出・入の率が高い地域では、利用者が近所に気遣いをするのが少ないため、歩行訓練等に抵抗感が少ないが、地域援助が受けられずに孤立することもある。

・田舎に行けば行くほど、同じ立場の視覚障害者が少なく、利用者本人に情報が入りにくい。

2) 住居環境について

・田や畑の多い地域は、歩道が整備されていないため歩きにくい環境であり、全盲者の歩行が難しい。そのため、田のないところを選んで訓練することも必要となる。

・小道、田舎道は歩行訓練のマニュアルから外れることが多い。

・訓練対象者の生活状況に近い環境を見つけ訓練するが、地域によっては狭い範囲に多様な訓練コースを設定できる。しかし、住宅街や商店街、繁華街などについての訓練をするために

ワゴン車等で遠出しなければならないところもある。

・坂道が多い、町が狭い、車が多く危険、地図を描きにくい地形、あるいは道路の側溝に蓋のない箇所が多い等の点については、訓練コースとしては不適切である。しかし、訓練上必要であるため側溝に蓋のない箇所の伝い歩きか安全・確実にできると、本人の自信が高まるなどの意見があった。

・公園内環境認知訓練のニーズは、公園が多い地域、公園が近くにある施設または家庭復帰される場合に多い。

・郵便局、銀行等が近くにない地域では、入所者の金銭自己管理に不便である。郵便局や銀行までのルートの指導は必要であるか、単独での利用にはある程度歩行訓練が進んでいる必要がある。また、そのルートが複雑な地域では、指導・訓練に多くの時間を要する。

3) 気象状況の影響

・雪や厳しい寒さは、必要以上に体力を消耗する。

・雪道歩行では、足かすくに冷えてしまうので、靴用懐炉の使用や足場の良い訓練場所の選定等の配慮を要する。

・雪上歩行では、道路横断に車音の利用について、夜間雪上歩行では道路横断での車音や照明の利用について指導する。

・降雪時の訓練は危険を伴うことが多いので、降雪時の歩行訓練の必要度に応じて実施している。

・夏場の訓練歩行は、続けて長時間出来ない。早い段階でバス、電車を利用するレベルまで上げて、総合的な訓練の中で対応する。

・特に夏の気温の高い所では、訓練歩行中の水分補給に気を配り、訓練生の体調に気を付ける。

荒天時には訓練が出来ない。天候が温暖で晴れの多い地区では、歩行訓練を進めやすい。

4) 利用交通手段について

・電車とバス、場合によっては高速バスの利用について訓練する。

・電車の利用指導については、駅舎内移動を重視する。援助依頼の対象者や手段についても、その地区に適切な指導内容とする。

・電車やバスの種類が多い地区や、路面電車のホームが季節によって異なる地区でのホームやバス停の検索の指導に留意する。

バスの行き先の確認、バスの本数が少ない場合の事前の時刻確認、電車からバス乗り場への移動の確認なども重要。

・道や信号機の状況、さらに交通量等の判断については、聴覚的な手かかりの活用、ロービジョン者では目の使い方等による指導も組み込む。

交通量が多い地区や信号無視の車が多い地区等での横断動作について助言する。

・移動距離を最短距離とするよりも、移動延へ時間か最短となるコースを設定し、スムーズに能率的に乗り換え等が出来るよう、ルートやラントマークを選択する。

・最近では、インターネットで各交通機関の駅構内図等の情報が入手出来るので、事前情報提供やコース設定に利用する。

5) 医療・福祉について

・主だった病院へのルート指導が必要であるか、医療機関が遠方であると困難を伴う。

・糖尿病の場合に、歩行訓練やスポーツ訓練等の負荷を配慮する。低血糖への対応、訓練中の声かけ、継続時間等への配慮も必要。

・社会資源の多い所では、生活訓練的に活用されるか、ホームヘルパーを利用するから訓練不要と言われることもある。

以上のように、地域特性に基づく訓練内容の相違点を明らかにすることができた。

この結果は、各地域において実施され生活訓練において、個々のケースと地域の状況に適合した、安全で有効な訓練を組み立てる際の有用な参考資料として活用できる。

D 結論

1 国立施設間で機能を有機的に活用することにより、地域障害者支援の質を向上させるネットカンファレンス・システムを作成した。

2 地域特性に基づく訓練内容の各センター間の相違点を明らかにすることが出来た。

医学評価カルテ

コート			
眼疾患名	R		
	L		
原因	R	① 外傷 ② 疾病 ③ 先天性 ④ その他 ()	
	L	① 外傷 ② 疾病 ③ 先天性 ④ その他 ()	
発症時期	R	① 年 月頃	② 不明
	L	① 年 月頃	② 不明
病歴			
視力		矯正視力	矯正度数
	R		S D = cyl D A° (m)
	L		S D = cyl D A° (m)
視野	R	分類 No	
	L	分類 No	
	[注 分類 ①求心性狭窄(度以内) ②中心暗点(度以内) ③半盲 ④その他]		
LoVE 値	(ローヒジョン視力計)	R	L
備考			

ケース調査票

ケース番号 ネット会議開催日 年 月 日 (調査日 年 月 日)

疾病名	障害名
機能等評価結果	
身長 () 体重 ()	
WAIS-R VIQ () HDS R () SDS () MAS ()	
BI(/ 100) 老研式活動能力指標 ()	
生活歴等	
学歴	
職歴	
家族	
経済状況	
その他	
病歴・障害歴	
生活状況	
生活地域 (山村、漁村、都市部)	
移動ルート	
現在使用している福祉機器	
現在受けている福祉サービス	
本人の要望	
家族等の要望	
自立計画	
ケースワーカーの評価と支援	

生活時間調査表

	生活の記録 平成 年 月 日()		
時刻	その時間帯に本人がやったことを具体的に書いてください。(例 睡眠、調理、風呂、ぼんやり)	ご家族が援助した場合は○をつけて援助した内容を書いてください。	備考
0 00			
0 30			
1 00			
1 30			
2 00			
2 30			
3 00			
3 30			
4 00			
4 30			
5 00			
5 30			
6 00			
6 30			
7 00			
7 30			
8 00			
8 30			
9 00			
9 30			
10 00			
10 30			
11 00			
11 30			
12 00			
12 30			
13 00			
13 30			
14 00			
14 30			
15 00			
15 30			
16 00			
16 30			
17 00			
17 30			
18 00			
18 30			
19 00			
19 30			
20 00			
20 30			
21 00			
21 30			
22 00			
22 30			
23 00			
23 30			

大項目	中項目	小項目	操作的定義	
I 介護管理に関する領域	A 健康		薬を指定された時間、回数、量に従い服薬する。必要に応じて薬の仕分けができる。薬がなくなる前日に服薬を受ける手立てを取る。自身で通院等しなくともよい。	
		1 服薬を管理する	食事制限があり、必要な食事の量や回数またはカロリーや塩分制限なども含め理解し、適切な食事量をとる。必要な食事準備ができる(自分で作らなくとも可)。	
		2 食事を管理する	性根をした場合に、流汗、消臭、止血等適切に処置をする。	
		3 ケガの処置をする	生理用品を適切に使用し、衛生的に処置する。	
		4 生理の処置をする	健康を維持・増進のための自己管理をする	
		5 健康を維持・増進のための自己管理をする	健康管理上必要な医師等からの指示事項(例えば定期受診、血圧、体重等の定期測定等)を指示どおりに行っている。障害に起因する健康管理(例えば腎臓透析患者の減塩量、透析等)に係る自己管理の範囲(事項)を含む。服薬、食事管理を除く。	
		6 皮膚の衛生管理をする	全身の皮膚の腫(傷刺を含む)、肌荒れ、あかぎれ等がない、あっても、処置している。	
		A1 食事	1 食器用品を使用する	摂取用具(箸、フォーク、スプーン、ナイフ等)を食品や身体機能に合わせて使用する。食べやすい大きさに形にする。
			2 こぼさずに食事を摂る	衣服やテーブル、床等に食品をこぼさず摂る。こぼさないよう配慮やこぼしていないと確認する。
			3 物まじりしたり、落とすことへの配慮と対応をする	油、ソース、カラシ、わさび、胡椒等を食卓にて使用する。調味料を適量必要な部分につける。汚したりこぼしたりしない。あるいは汚したりこぼしたことに気がつき適切に処置する。
4 調味料を使う	一般的なトイレの形状や状況や状態を理解し、トイレをこぼさずに利用する。あるいは、汚したことに気づかぬが、手洗い等の衛生管理もする。			
B 排泄	1 トイレを使用する	失禁等の際、着がえをするなど衛生を確保、汚れた衣類などを適切に処置する。		
	2 失禁等への対応をする	全身の汚れを洗い落とす。石鹸等の適量使用と十分な洗い流しをする。用具(タオル等)の石鹸分が十分すすぎをすすぎ、共同利用の場合は、他者への配慮をしている。		
C 入浴	1 身体を洗う	頭髪全体の汚れを洗い落とす。シャンプー等の適量使用と十分な洗い流しをする。		
	2 洗髪をする	汚れや石鹸を落とす。お湯に入る。		
	3 浴槽を利用する	タオル等を利用して、全身の水分を着衣に吸収しない状態に拭き取る。体から水が滴るような状態で脱衣所内や室内を移動しない。		
	4 体を拭く	清潔な身体を保つために定期的に入浴する。おおよそ毎日又は1日おき程度の間隔である。特に汚れたり、夏季に汗をかいた際には、入浴やシャワーで対応する。		
	5 清潔な身体を保つ	入浴後適切な下着等に着がえをする。		
D 整容	1 手を洗う	手指全体を清潔に洗う。手指の水分を試き取る。石鹸等をまんべんなくつける。泡立てる。汚れが残らない。水は流す。汚れている、外出から戻った際、玄関等の手を洗う必要がある状況を理解している。着衣に石鹸等を付けたり、濡らさずできる。洗面台等周辺への着しい水はねがない。		
	2 洗顔をする	顔全体を清潔に洗う。石鹸等をまんべんなくつける。泡立てる。汚れが残らない。十分に洗い流しができる。着衣に石鹸等を付けたり、濡らさずできる。洗面台等周辺への着しい水はねがない。		
	3 髪をとかす	一般社会通念上見苦しくない頭髪である。清潔感がある。		
	4 歯磨きをする	歯磨き後、歯に食べ物のかす等がついていない。口の周りに歯磨き粉が残っていない。		
	5 ひげを剃る	外見上そり残りのない状態にひげを剃る。ひげ剃り用具の安全な使用と衛生管理をする。フォームを使う場合は、必要な箇所に塗る。洗い流す、拭き取る。ひげが伸びていない。ひげを伸ばしている場合は、ひげを整える。		
	6 化粧をする	化粧をする。また毛の処理をする。		
	7 爪を切る	一般社会通念上、行為に支障ない状態に爪を維持する。上下版の全指の爪を一定の長さで磨いている。深爪していない。切った先端がなめらかである。		
	8 足のケアをする	適切な用具を使い、耳掃除ができる。外耳及び耳介の汚れがない。外耳が傷ついていない。		
	9 履まかむ	ティンコペーパー等を使い、鼻水がでたら鼻をかみ、鼻の周囲をきれいに拭く。		
	10 口まぶく	食事の後の口まわりの汚れに注意を払い、ティンコペーパーやハンカチ等できれいに拭き取る。よだれがある場合、よだれを拭き取る。たまたまにしない。		
E 更衣	1 衣服を着脱する	下着、ネクタイ、靴下を含む全ての衣服を着脱した際、ずれや絡み合わせの間違いがない。		
	2 状況に合わせた衣服の選択をする	季節、天候、気温、場所等の環境に適した服装を選択する。外出の際等、環境や周囲の寒化を予測し準備する。		
	3 衣服の汚れの対応をする	衣服の汚れを認識し、清潔な服装を穿つ。衣服を汚さない配慮や汚れた場合、拭き取ったり、定期的に着替える。		
	4 おしやれをする	自分のおしやれに合ったアークセサリーや洋服などを身につけ、おしやれを整える。		
II 日常生活関連動作に関する領域	A1 調理	1 お茶を準備する	お湯を沸かす。お茶の葉やお湯をこぼさずに適量入れ、湯飲みにこぼさずついでいる。お茶またはコーヒー(インスタント可)。	
		2 炊飯をする	水の量を量る。炊飯に適した状態に米をとぎ、お釜を洗ったとき米をこぼさない。米の量に合った水の量を量る。炊飯器を操作する。	
		3 調理補助をする	指示された範囲での調理の下ごしらえや準備が見守りできるように、調理士担当者と共に調理の補助ができる。	
		4 調理補助の準備をする	1日1食程度の範囲での調理(自分の分のみ)ができる(食事の主体的な準備は食事等が対応する。冷凍、レトルト、インスタント食品の利用可)。	
		5 調理士担当者として食事(副食)の準備をする	生活に必要な食事(主に朝食の調理)の準備ができる。食事等に対して食事の準備をする役割がある場合には、必要な人割りに対応できる。	
		6 食材の管理をする	食品で足りないものが何がある。百くった食品を消費する。食品の性質や保存期間に応じて、適切な保存方法(凍結、冷蔵、乾燥、包装等)を選択し貯蔵する。	
		7 後かたづけをする	調理及び食事に使用した器具、食器等の汚れを取り、所定の場所に収納する。特別の事情がない限り当日中に行い、ためない。また、食卓、台所の清掃をする。ゴミを分別し処理をする。	
		8 衛生管理をする	台所の衛生的環境を維持する。布巾、まな板、シンク内、冷蔵庫内、調味料入れ、油等を衛生的に管理する。	

日常生活活動状況調査表(定義)

<p>B 洗濯</p> <p>1 洗濯をする</p> <p>2 洗濯物を乾かす</p> <p>3 洗濯物を取り込む</p>	<p>洗濯物の製品特性(色落ちへの配慮 繊維の特性)に合わせて洗濯する。定期的に洗濯する。着るものが高くない程度である。洗剤等を適量使用する。洗濯物を紛失しない。洗濯物を洗濯槽から残さず取る。汚れのひどいものは予洗いする。</p> <p>洗濯したものを干すあるいは乾燥機を使って乾かす。洗濯物を種類に応じて区別し干すあるいは乾かす。干し方で 床に落ちないように工夫をする。気候に応じて干す。</p> <p>乾燥した衣類を取り込む。取り込み忘れがない。洗濯物を引きずったりして汚さない。対のものをバラバラにしない。必要に応じて洗濯物を整理する(畳む 種類別や着用者別に分けておく、一定の場所に入れておく等)。</p>
<p>C 衣類管理</p> <p>1 衣類の収納をする</p> <p>2 簡単な縫い物や衣類の補修をする</p> <p>3 アイロンを使用する</p> <p>4 クリーニングを利用する</p>	<p>衣類を部屋の中に敷かず、干したままにせず、収納場所に使いやすきように収納する。防虫管理が必要な衣類を整理し、必要な用具を利用する。</p> <p>簡単なボタン掛け、縫い物等をする。糸通し、糸の始末、生地の色と糸の色のマチンク等に配慮する。</p> <p>生地質にあった温度設定をし、ハンカチ、ズボン、シャツ程度のしわを取り、折り目をつける。やけど、衣服の焦げ等に配慮する。</p> <p>クリーニングの利用が適当な衣服等(裏地に汗染みやすいもの、あるいは着ても技術的に高度であったり 大きな手間を要するもの及び形状を整えることが難しい等)を、クリーニングへ出し受ける。利用時期の判断(衣替え等、使用頻度に応じた時期)をする。何もかも全てクリーニングには出さない。</p>
<p>D 道具の管理</p> <p>1 ペットや布団で寝る準備をする</p> <p>2 ノーズやカーの交換をする</p> <p>3 布団やマットの衛生を管理する</p>	<p>道具を常時出しっぱなしにせず、所定の場所にしぼる。ペットの場合、ペット上の道具を乱雑にしておかない。</p> <p>ノーズ、枕カバーの交換を行う。週1回程度交換する。</p> <p>最低週1回以上は換気をし、状況に応じて乾燥機でもよい。</p>
<p>E 掃除</p> <p>1 掃除をする</p> <p>2 ゴミの処理をする</p>	<p>清掃場所の状況に適した用具を使い掃除をする。部屋、トイレ、浴室等の清掃をする。清潔な状況を継続的に維持する。床面、窓 各種器具の汚れ 家具のほこり等の除去をする。定期的に行っている。用具の始末(雑巾を洗う、干す、用具の収納等)ができる。</p> <p>必要なごみの区別を行う。衛生的に保ち、定期的に衛生的な処分を行う。所定の場所に分別処理する。ゴミの回収ルールを守る。</p>
<p>F 書類管理</p> <p>1 書類等の整理 書類 保管をする</p>	<p>証券、領収書、保証書などの書類を無造作に散らかさない。一定の場所にしまふ。必要な書類をすぐに取り出す。</p>
<p>G 金銭管理</p> <p>1 金銭分別 受け渡しをする</p> <p>2 金銭等の保管をする</p> <p>3 家計を管理する</p> <p>4 金融機関を利用する</p> <p>5 日用品を購入する</p>	<p>金銭の受け渡しをする。紙幣、硬貨を種類に分ける。金銭の勘定をする。金額に応じた支払いや受け渡しをする。多額の金銭がでないよう支払いをする。</p> <p>金銭を財布等を用いて所定の場所に防犯を考慮して保管する。すぐに必要としない多額の現金は金融機関に保管する。乱雑に現金を部屋の中などに置かない。</p> <p>キャッシュカード、クレジットカード、印鑑、通帳を保管する。</p> <p>収入の範囲内で必要な支出項目を理解する。お金の配分や収入に応じて支出が出来て 概ね収支バランスのとれた家計管理をする。ムダ使いをしない。家計簿や小遣い帳を必ずしもつけなくてもよい。予算を立てて購入する。</p> <p>金融機関の機能 諸手続を理解し 活用する。預貯金、借入れ、公共料金引き落とし、両替 キャッシュカード等を利用する。必要書類の作成をする。あるいは適切な書類をする。</p> <p>必要な品物がどのようなところで取り扱っているか知っている。必要とする品物の規格、適量が分かる。購入後大きさが合わない、形状が違う等の問題が無いように購入する。買い忘れや 余分な物あるいは 使えないものを購入せず 適切な購入をする。単品の購入だけでなく 何かをしよとすると必要な複数の物品を事前に確認する。</p>
<p>H ハウスメンテナンス</p> <p>1 家電器具を使用する</p> <p>2 壁やペランダの手入れをする</p> <p>3 洗濯機器具を利用する</p> <p>4 風呂を流かす</p>	<p>電気、冷蔵庫、テレビ、ラジオ、CD(テープ)録音再生機器程度程度の電気器具を適切に使う。</p> <p>ペランダや壁の手入れをする。</p> <p>季節や気候の変化に伴い冷暖房器具を準備する。操作する。収納する。管理する。</p> <p>風呂を流かす。用し忘れがない。溜たまりをしない。</p>
<p>IV 移動に関する領域</p> <p>A 屋内歩行</p> <p>1 室内(自宅等)のレイアウトを理解し、歩行する</p> <p>2 屋内(家など)の目的場所を発見する</p> <p>3 屋内(家など)で安全に配慮し歩行する</p>	<p>メンタルマップを描き、歩行に伴う自分の位置を定直し、目的場所の方向がわかる。</p> <p>目的地(部屋、場所等)を発見する。</p> <p>目的場所や他の歩行者との接触、衝突等の危険性がある状況の判断を行う。衝突、接触に配慮し、一時停止、回避行動をとる。</p>
<p>B 屋外歩行</p> <p>1 昼間の既知の目的地への歩行をする</p> <p>2 昼間の未知の目的地への歩行をする</p> <p>3 夜間の既知の目的地への歩行をする</p> <p>4 夜間の未知の目的地への移動をする</p> <p>5 移動介助を受ける</p> <p>6 援助依頼をする</p>	<p>昼間時に障害物や車 歩行者との接触、衝突、転倒 転落等の危険性がある状況の判断を行う。それらの危険を回避するための配慮(一時停止 防脚姿勢 援助依頼 避路等)及び歩行をとり、目的地まで歩行する。</p> <p>昼間時に障害物や車 歩行者との接触、衝突、転倒 転落等の危険性がある状況の判断を行う。それらの危険を回避するための配慮(一時停止 防脚姿勢 援助依頼 避路等)及び歩行をとり、目的地まで歩行する。</p> <p>夜間時に障害物や車 歩行者との接触、衝突、転倒 転落等の危険性がある状況の判断を行う。それらの危険を回避するための配慮(一時停止 防脚姿勢 援助依頼 避路等)及び歩行をとり、目的地まで歩行する。</p> <p>夜間時に障害物や車 歩行者との接触、衝突、転倒 転落等の危険性がある状況の判断を行う。それらの危険を回避するための配慮(一時停止 防脚姿勢 援助依頼 避路等)及び歩行をとり、目的地まで歩行する。</p> <p>移動介助を受ける。</p> <p>他者に對して必要な援助を依頼する。声かけや必要な依頼事項を伝える。</p>
<p>C 公共交通機関の利用</p> <p>1 電車や地下鉄を利用する</p> <p>2 バスを利用する</p> <p>3 船や飛行機を利用する</p> <p>4 タクシーを利用する</p>	<p>電車や地下鉄を利用する。ホーム上の歩行、切符の購入、料金支払い、乗降に際する必要な動作 料金、時刻、経路の確認をする。</p> <p>バスを利用する。停留所の歩行、切符の購入、料金支払い、乗降に際する必要な動作 料金、時刻、経路の確認をする。</p> <p>船や飛行機を利用する。乗や空港の歩行、チケットの予約購入、料金支払い、乗降に際する必要な動作 料金、時刻、経路の確認をする。</p> <p>タクシーを手配し、利用する。</p>

日常生活活動状況調査表(定義)

(資料1-4)

D	運転	1 自動車運転する 2 バイクを運転する 3 自転車に乗る	自動車免許がある。自動車を運転する。 バイクの免許がある。バイクを運転する。 自転車に乗り、障害物や車 歩行者との接触 衝突 転倒 転落等の危険性を判断する。それらの危険を回避するための配慮(一時停止 確認等)及び行動をとり目的地まで移動する。
V	コミュニケーションスキルに関する領域	A 音声言語によるコミュニケーション 1 言葉による指示を理解する 2 言葉による質問をする 3 疑問を述べたことを述べる 4 伝言を伝える 5 他者の話を聞き、自分の意見が述べられる 6 場面や相手に合った言葉遣いができる B 顔字によるコミュニケーション 1 文字での簡単な指示を理解する 2 簡単な漢字を含む文章の意味を理解できる 3 新聞や本を読む 4 簡単な絵や図の意味を理解できる C 書字によるコミュニケーション 1 自分の氏名や住所を書く 2 日常的に使う漢字を用いた文章が書ける 3 メモを利用する 4 はがき、手紙、日記などの簡単な文章をつくる 5 簡単な絵や図を描く 6 各種用紙への記入する D 情報機器の使用 1 必要とする情報を収集する 2 メールを利用する 3 インターネットを利用する 4 辞書を利用する 5 電話を利用する	言葉による簡単な指示を理解する。 言葉で質問し、それに対する回答を理解する。 他者やTV、ラジオ、新聞、雑誌、本等から得た情報や話題、あるいは自分で見たものについて、他者に直前で内容や状況を伝える。 言葉による伝言を理解し、伝えるべき相手に直前でその伝言を伝える。 他者の話を聞き、自分の考え、意見等を適切に述べる。 場面や相手に合った言葉遣いや態度で挨拶、受け答え、挨拶等ができる 文字による簡単な指示や文字を読んで理解する。 小学校3年生程度の漢字を含む文章を読んで意味が理解できる。 本を読む。内容を理解する。本の種類は問わない。新聞を読み、内容を理解する。記事の内容は問わず、興味のあるものでよい。 特定の場所やものの形状等の簡単な地図や絵及び非常口、トイレ(男女別)等の一般的マークを見て、意味を理解する。 自分の氏名や住所を漢字で書く。 小学校3年生程度の漢字を含む文章が書ける。 メモを取り、活用する。 はがき、便せん等に宛名や用件を書き、切手を貼って投函する。日記、作文等簡単な文章を書く。 特定の場所やものの形状等を他者に説明するために、簡単な地図や絵を描く。 宅配便、履歴書、住民票の申請、パスポート申請、年金などの所定様式の欄を理解し記入する。 必要とする情報を収集する手段を選択し、活用する。情報のレベルは本人が満足するレベルでよい。 メールを利用する。 インターネットを利用する。 国語、漢和などの辞典を利用する。情報機器を利用する。 電話機等を使って、用件を伝えたり、対応をする。

コード	評価項目	目標	可	目 標	摘要
I	健康管理に関する領域	0	0	0	
A	健康	0	0	0	
1	服薬を管理する	0	0	0	
2	食事を管理する	0	0	0	
3	ケガの処置をする	0	0	0	
4	生理の処置をする	0	0	0	
5	健康を維持 増進のための自己管理をする	0	0	0	
6	皮膚の衛生管理をする	0	0	0	
II	身体介助に関する領域(身辺処理)	0	0	0	
A	食事	0	0	0	
1	食器用具を使用する	0	0	0	
2	こぼさずに食事をする	0	0	0	
3	物を倒したり、落とすことへの配慮と対応をする	0	0	0	
4	調味料を使う	0	0	0	
B	排泄	0	0	0	
1	トイレを使用する	0	0	0	
2	失禁等への対応をする	0	0	0	
C	入浴	0	0	0	
1	身体を洗う	0	0	0	
2	洗髪をする	0	0	0	
3	浴室を利用する	0	0	0	
4	体を拭く	0	0	0	
5	清潔な身体を保つ	0	0	0	
D	整容	0	0	0	
1	手を洗う	0	0	0	
2	洗顔をする	0	0	0	
3	髪をとかす	0	0	0	
4	歯磨きする	0	0	0	
5	ひげを剃る	0	0	0	
6	化粧をする	0	0	0	
7	爪を切る	0	0	0	
8	耳のケア-をする	0	0	0	
9	鼻をかむ	0	0	0	
10	口をふく	0	0	0	
E	更衣	0	0	0	
1	衣服を着脱する	0	0	0	
2	状況に合わせた衣服の選択をする	0	0	0	
3	衣服の汚れへの配慮と対応をする	0	0	0	
4	おしやれをする	0	0	0	

Ⅲ	日常生活関連動作に関する領域	0	0
A	調理	0	0
1	お茶を準備する	0	0
2	炊飯をする	0	0
3	調理補助をする	0	0
4	簡単な副食の準備をする	0	0
5	調理主担当者として食卓(副食)の準備をする	0	0
6	食材の管理をする	0	0
7	後かたづけをする	0	0
8	衛生管理をする	0	0
B	洗濯	0	0
1	洗濯をする	0	0
2	洗濯物を乾かす	0	0
3	洗濯物を取り込む	0	0
C	衣類管理	0	0
1	衣類の収納をする	0	0
2	簡単な縫い物や衣類の補修をする	0	0
3	アイロンを使用する	0	0
4	クリーニングを利用する	0	0
D	寝具の管理 取納	0	0
1	ベットや布団で寝る準備をする	0	0
2	シーツやカバーを交換する	0	0
3	布団やマットの衛生を管理する	0	0
E	掃除	0	0
1	掃除をする	0	0
2	ゴミの処理をする	0	0
F	書類整理	0	0
1	書類等の整理・整頓・保管をする	0	0
G	金銭管理 買物	0	0
1	金銭弁別 受け渡しをする	0	0
2	金銭等の保管をする	0	0
3	家計を管理する	0	0
4	金融機関を利用する	0	0
5	日用品を購入する	0	0
H	ハウスマネージメント	0	0
1	家電器具を使用する	0	0
2	庭やベランダの手入れをする	0	0
3	冷暖房器具を利用する	0	0
4	風呂を沸かす	0	0
IV	移動に関する領域	0	0
A	屋内歩行	0	0
1	室内(自宅等)のレイアウトを理解し、歩行する	0	0
2	屋内(家など)の目的場所を発見する	0	0
3	屋内(家など)で安全に配慮し歩行する	0	0

日常生活活動状況調査表

(様式4)

B	屋外歩行	0	0	0
1	屋間の既知の目的地への歩行をする	0	0	0
2	屋間の未知の目的地への歩行をする	0	0	0
3	夜間の既知の目的地への歩行をする	0	0	0
4	夜間の未知の目的地への移動をする	0	0	0
5	移動介助を受ける	0	0	0
6	援助依頼をする	0	0	0
C	公共交通機関の利用	0	0	0
1	電車や地下鉄を利用する	0	0	0
2	バスを利用する	0	0	0
3	船や飛行機を利用する	0	0	0
4	タクシーを利用する	0	0	0
D	運転	0	0	0
1	自動車を運転する	0	0	0
2	バイクを運転する	0	0	0
3	自転車に乗る	0	0	0
V	コミュニケーションスキルに関する領域	0	0	0
A	音声言語によるコミュニケーション	0	0	0
1	言語による指示を理解する	0	0	0
2	言語による質問をする	0	0	0
3	見聞きしたことを述べる	0	0	0
4	伝言を伝える	0	0	0
5	他者の話を聞き、自分の意見が述べられる	0	0	0
6	場面や相手に合った言葉遣いができる	0	0	0
B	文字によるコミュニケーション	0	0	0
1	文字での簡単な指示を理解する	0	0	0
2	簡単な漢字を含む文章の意味を理解できる	0	0	0
3	新聞や本を読む	0	0	0
4	簡単な絵や図の意味が理解できる	0	0	0
C	書字によるコミュニケーション	0	0	0
1	自分の氏名や住所を書く	0	0	0
2	日常的に使う漢字を用いた文章が書ける	0	0	0
3	メモを利用する	0	0	0
4	はがき、手紙、日記などの簡単な文書をつくる	0	0	0
5	簡単な絵や図が描く	0	0	0
6	各種用紙への記入する	0	0	0
D	情報機器の使用	0	0	0
1	必要とする情報を収集する	0	0	0
2	メールを利用する	0	0	0
3	インターネットを利用する	0	0	0
4	辞書を利用する	0	0	0
5	電話を利用する	0	0	0

訓練支援計画書

コート

平成 年 月 日

訓練項目	訓練内容	具体的な目標	訓練の方法	訓練期間・担当者・備考	時間 週
				1週間の配当時間 訓練の期予定 訓練終了日 訓練担当者名	時間 週
				1週間の配当時間 訓練の期予定 訓練終了日 訓練担当者名	時間 週
				1週間の配当時間 訓練の期予定 訓練終了日 訓練担当者名	時間 週 中旬
				1週間の配当時間 訓練の期予定 訓練終了日 訓練担当者名	時間 週
				1週間の配当時間 訓練の期予定 訓練終了日 訓練担当者名	時間 週
				1週間の配当時間 訓練の期予定 訓練終了日 訓練担当者名	時間 週 中旬
				1週間の配当時間 訓練の期予定 訓練終了日 訓練担当者名	時間 週

訓練支援計画書

平成 年 月 日

(記入例)

コート

訓練項目	訓練内容	具体的な目標	訓練の方法	訓練期間・担当者・備考
身辺管理	1 爪まきりの使い方 2 ヤスリの使い方	1 爪を適切な長さに切りそろえることかできる。 2 定期的な爪を切り、清潔に心がける。	日常	1 週間の配当時間 訓練の期間 訓練終了日 訓練終了日 訓練担当者名
家事管理	1 電気掃除機の使い方 2 拭き掃除の方法	1 掃除を定期的に行うことかできる。 2 掃除場所に応じた掃除方法を掃除する。 3 コミを分別し処理をする。	日常	1 週間の配当時間 訓練の期間 訓練終了日 訓練終了日 訓練担当者名
調理	1 ガスコンロ等の熟源操作 2 調理器具の使用 3 食器、調理器具の洗浄と収納 4 買い物	1 レトルト食品を中心に簡単な調理をする。 2 商品の選択、買い物、調理、片付けの一連の動作かできる。 3 店員とのコミュニケーションをはかる。	調理	1 週間の配当時間 訓練の期間 訓練終了日 訓練終了日 訓練担当者名
移動	1 杖の基本操作 2 住宅街の歩行 3 住宅街での目的地発見 4 公共交通機関の利用	1 センター近隣の目的地に安全、確実に歩行かできる。 2 自宅から障害者職能訓練センターまでの通所かできる。	歩行	1 週間の配当時間 訓練の期間 訓練終了日 訓練終了日 訓練担当者名
書読	1 拡大読書器の使い方 2 ルーペの使い方 3 単眼鏡の使い方	1 保有視覚をパソコン訓練、歩行訓練でも有効に活用できる。 2 視覚的補助具を有効に活用し、日常生活に役立てる。	ローヒョン	1 週間の配当時間 訓練の期間 訓練終了日 訓練終了日 訓練担当者名
コミュニケーション	1 パソコンでの文字入力 2 パソコンのファイル操作 3 ワードプロの編集操作	1 パソコンの基本操作を習得し、障害者職能センター通所に向けた準備をする。	IT	1 週間の配当時間 訓練の期間 訓練終了日 訓練終了日 訓練担当者名
情報機器の活用	1 メールを送受信 2 インターネットの利用	1 コミュニケーションの手段としてメールを活用する。 2 インターネットを使って情報収集かできる。	IT	1 週間の配当時間 訓練の期間 訓練終了日 訓練終了日 訓練担当者名

地域特性に関するアンケート調査結果（函館版）

このアンケート調査は、国勢調査に基づいたデータを地域ごとに集計し、比較したものを参考に作成したものです。

- 1 単独世帯の割合が、全国平均よりも低く、高齢者単身世帯の割合は、全国的平均レベルですが、利用者の方の家族支援等は、他のセンターに比べ、多い方だと感じますか。（ はい いいえ ）

コメント

- ①いいえ 未記入
- ②いいえ 未記入
- ③いいえ 未記入
- ④はい 未記入
- ⑤はい 未記入
- ⑥いいえ 未記入
- ⑦いいえ 未記入
- ⑧いいえ 個々別々と思います。家族の支援としては、あたたかみがあるように感じます。
- ⑨いいえ 未記入

- 2 人口流入及び流出比率が、他のセンターに比べ、低い状況であるため、同じ地域で生活されている利用者が多いと推察されますが、貴地域での歩行訓練（環境認知）等は、容易であることが多いと感じますか。生活訓練内容への影響があれば列挙して下さい。（ ある ない ）

事項

- ①ない 未記入
- ②ない 未記入
- ③未記入 未記入
- ④ない 未記入
- ⑤ない 未記入
- ⑥ない 未記入
- ⑦ない 未記入
- ⑧ない 小道、田舎道はOMのマニュアルから外れることが多い。
- ⑨ない 未記入

3 森林面積が多く、自然公園面積の割合が、他の地域に比べ、低い状況ですが、利用者が公園等へ散歩に行きたいというニーズは少ないと感しますか。

(はい いいえ)

そのことが、歩行訓練内容に影響していますか。(はい いいえ)

影響している点

- ①いいえ→いいえ 未記入
- ②いいえ→いいえ 未記入
- ③はい→いいえ 未記入
- ④いいえ→いいえ 未記入
- ⑤いいえ→いいえ 未記入
- ⑥いいえ→いいえ 未記入
- ⑦いいえ→いいえ 未記入
- ⑧はい→いいえ 未記入
- ⑨いいえ→いいえ 未記入

4 田や畑の割合が多い状況ですか、そのことが歩行訓練を含む日常生活訓練に及ぼす影響がありますか。(はい いいえ)

影響している点

- ①いいえ 未記入
- ②いいえ 未記入
- ③いいえ 未記入
- ④いいえ 未記入
- ⑤いいえ 未記入
- ⑥いいえ 未記入
- ⑦いいえ 未記入
- ⑧はい 盲人用具入手もしくは支払いが都会とは異なる。
- ⑨いいえ 未記入

5 有訴者率、一般病院外来患者数が、他の地域に比べ、高い状況ですが、歩行訓練等における通院のニーズも多いと感しますか。(はい いいえ)

コメント

- ①いいえ 未記入
- ②はい 未記入
- ③はい 未記入
- ④はい 未記入
- ⑤はい 未記入
- ⑥はい 主だった病院のルートF a mが必要 (眼科、歯科、内科、外科、総合病院など)。
- ⑦はい 未記入
- ⑧はい 当センター理教へ進む方でDMの場合は自己管理で通う病院のルート確保は必要となる。
- ⑨はい 未記入